

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和4年4月28日現在）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■認定農業者 新たに15経営体が認定農業者の仲間入り

高山市において、今年度新たに15経営体が5年後の経営目標となる「農業経営改善計画」の認定を受け、認定農業者となった。

4月11日には、認定書授与式が開催され7名の経営体代表者が出席し、國島市長から認定書が授与された。

新規認定者の営農類型は、トマトやハウレンソウなどの施設園芸を中心に、畜産や水稲、露地野菜など多岐にわたる。また、法人化や経営継承等を契機とした新規認定が全体の約半数を占めて、経営の世代交代が進みつつあることが伺えた。

飛騨管内には4月末時点で647経営体の認定農業者がおり、農業普及課では市村やJAと連携して、各経営体の経営改善計画の実現に向けて支援を進める。



【認定を受けた皆さん】

■担い手育成 高山市にて長期研修生の就農支援会議を開催

4月22日、高山市内で就農を目指し今年度から長期研修に取り組む研修生2名を対象に、就農支援会議を開催した。

会議は、研修生の自己紹介に始まり、市と農畜産公社担当者から研修の心構えや各種補助事業、農地確保などの情報提供があった。

続いて、農業普及課から就農計画作成のポイントや長期研修のスケジュールについて説明した。

今後、長期研修生は2年間の研修期間中、指導農業士の下での実践研修や座学研修である「飛騨就農支援塾」を受講し、栽培管理や病害虫対策、農産物流通、経営等の営農に必要な技術・知識の修得を目指す。

農業普及課では、「飛騨就農支援塾」の企画・運営に加え、研修状況を確認しつつ、関係機関とともに営農開始に向けた支援を行う。



【就農支援会議を開催】

■女性農業経営アドバイザー 飛騨ブロックから会長選出～オンラインで通常総会開催～

4月20日、「岐阜県女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク」の第25回通常総会および第1回事業推進検討会がオンラインで開催された。

通常総会では、飛騨ブロック代表の吉野聡子氏（養豚）が令和4年度の会長に選出され、吉野新会長からは「みなさんと力を合わせて活動を盛り上げていきたい」と挨拶があった。

また、飛騨ブロックの田中順子氏をはじめ、令和3年度をもって退任される5名が紹介され、長年の功績を称えた。

農業普及課では、会長選出ブロックの事務局として10月下旬に飛騨ブロックで予定されている全体研修会の開催をはじめ、女性農業経営アドバイザーの地区活動だけでなく県行事も合わせて支援を行っていく。

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■ほうれんそう 吉城蔬菜出荷組合ほうれんそう部会目揃え会

4月28日、吉城蔬菜出荷組合ほうれんそう部会の目揃え会が開催された。

農業普及課からは、この時期に発生が問題となるべと病とハウレンソウケナガコナダニの対策技術に加えて、部会で取り組んでいる「ぎふクリーン農業」における出荷基準について説明した。

部会長からは目揃い会に際して、「今年は降雪が多く播種時期が昨年より遅れているが、部会としては、『信頼（あてに）される産地へ～安定品質・安定（責任）出荷』を目標に掲げ様々な対策を実施し、達成したい。」とあいさつがあった。

農業普及課としても、部会の目標を達成できるよう栽培管理だけでなく調整作業も含めた支援に取り組む。

■ トウモロコシ は種検討会（販売方針の検討）を開催

吉城蔬菜出荷組合特産部会とうもろこし部会では、15戸が約1.2haのトウモロコシを生産している。

4月21日には、は種検討会が行われ事前に収集した生産者の播種予定を元に、JAひだ、JA全農、農業普及課が参加し、今年度の販売方針について検討した。

結果、多くの人に飛騨産のトウモロコシを届けるため、今年度は出荷先を増やすとともに、需要の多いピークに切れ間もなく出荷できるように取り組むこととなった。

農業普及課では、育苗時から巡回指導や生育情報の提供を行い、高品質なトウモロコシの生産を支援する。



【今年度の販売方針を検討】

■ 夏秋トマト 夏秋トマト3Sシステムの新規栽培者への重点支援

令和4年度は、夏秋トマト3Sシステム（隔離培地による養液栽培）を農家8名（約90a）が取り組むなど栽培面積が年々拡大している。

農業普及課では、通常の巡回指導に加えて、うち2名は新規栽培者となることから重点対象に位置付け、特段の支援に取り組んでいる。

3月下旬には本ぼでの栽培管理に移行しており、農業普及課が4月14日から2戸の対象農家で排液のEC及び硝酸イオン濃度、葉柄汁中の硝酸イオン濃度等の測定を開始した。

結果、4月前半までは比較的最低気温が高く、順調な生育が確保されており、今後、果実肥大が始まり旺盛な養分吸収となる時期を迎えることから給液回数の増加や給液ECの上昇について指導した。

農業普及課では、毎週、測定を実施し生育状況を踏まえた肥培管理を指導するとともに、3Sシステムの管理データを蓄積し、広く栽培指導に生かす予定である。



【培土からの排液を採取】

■ 夏秋トマト 吉城蔬菜出荷組合トマト部会 春季栽培研修会を実施

4月21日、吉城蔬菜出荷組合トマト部会では、育苗時期に合わせて春季栽培研修会を開催した。

今回の研修会は、新型コロナウイルス感染症が拡大して以降3年ぶりの開催となり、当日は33名の部会員が出席した。

研修会では、はじめに種苗メーカーから品種に適した栽培管理について情報提供があり、その後、農業普及課から昨年度の病害発生に関するアンケートの結果をもとに、近年問題となっている灰色かび病を中心とした病害対策について説明した。

今年度、農業普及課では環境モニタリング装置を使った灰色かび病対策の技術実証を予定しており、スマート農業技術を利用し近年の気象変動にも対応したきめ細かな支援に取り組む計画である。



【3年ぶりに研修会を開催】